

性能評価用提出図書（別添）作成要領

＜耐火構造＞
（防火設備用）

～作成にあたっての注意事項～

- 1) 本書類は、性能評価用提出図書（別添）です。
当法人打合せ担当者との打合せの中で試験体仕様の選定を行いますが、その際の資料として、申請される材料を漏れなく記載願います。
- 2) 図書サイズは、特に指定されたもの以外はA 4判としてください。
- 3) 様式指定のあるものは、指定どおりの様式を用いてください。
- 4) 原則として文字は全てワープロ打ち（MS明朝体・サイズは10ポイント、数字、単位は半角文字）とし、図面等は鮮明なものとしてください。（ワープロソフトは原則としてMS-WORDを使用してください）
- 5) 大臣認定に係る性能評価は、申請構造の仕様に対する評価であるため、「商品名」は記載しないでください。
- 6) 「2. 形状及び寸法等」、「3. 材料構成」は、各材料のバリエーション、数値の公差、範囲等の申請範囲を示す部分です。
各材料にバリエーションのある場合は、あらかじめ全てのバリエーションを評価図書に明記して下さい。また、各構造の中でJIS製品、大臣認定品等を使用する場合は、その番号も明記して下さい。

網掛け表示部分は、本仕様に対応した材質、寸法、規格番号、数値等を記入してください。

記載例(防火設備)

(別 添)

1. 構造名 :

〇〇窓

打合せ担当者との打合せに基づいて記載入してください。
わからない場合は一般名称でも構いませんが、
商品名は記入しないでください。

2. 寸法および形状等

(寸法単位 : mm)

項目	仕 様
大きさ	窓 W 000~000 × H 000~000 開口 w 000~000 × h 000~000
枠見付	000~000
枠見込	000~000

3. 材料構成

主構成材料の部材名の頭文字は
□と項目順番号を記入してください。

1) 主構成材料

(寸法単位 : mm)

項目	仕 様
1 上枠	<p>例 : JIS 番号で材料を特定する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 材質 〇〇〇鋼板 規格 JIS G 0000 厚さ 00~00 <p>(別添-〇〇参照)</p>
2 たて枠	<p>例 : 認定番号で材料を特定する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 材質 〇〇〇(国土交通大臣認定 ; NM-0000) 厚さ 00~00 <p>(別添-〇〇参照)</p>
3 下枠	<p>例 : 国交省告示で材料を特定する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 材質 〇〇〇(平成 12 年国土交通省告示第 0000 号) 厚さ 00~00 <p>(別添-〇〇参照)</p>
4 押縁	<p>例 : 農林規格で材料を特定する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 材質 〇〇〇 規格 JAS 厚さ 00~00 <p>(別添-〇〇参照)</p>

部材の断面図が何ページ目にあるのか
記入してください。他の部材も全て同じ
ようにしてください。

項目	仕様
5 ガラス	複層ガラス ・総厚 ○○ (複層ガラスの構成) [1] 屋外側ガラス ・ガラス種類 ○○○ガラス ・種類 フロート板ガラス ・規格 JIS R 3202 ・厚さ ○○ ・反射膜厚さ ○○nm ・反射膜の種類 銀系 [2] 屋内側ガラス ・ガラス種類 ○○○ガラス ・厚さ ○○ ・規格 JIS R 3204 ・種類 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)透明(磨き板) (2)型板 ・形状 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)ひし網 (2)角網 ・線種 ○○ ・線径 ○○ ・網目間隔 ○○×○○又は○○×○○ (呼称) [3] 中間層 ・種類 (1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1)空気 (2)アルゴン (3)クリプトン ・厚さ ○○～○○ [4] スペーサー ・材質 アルミニウム合金(JIS H 4000) ・寸法 ○○～○○ ・高さ ○○～○○ [5] 封止材 ・材質 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)○○○系樹脂 (2)○○○系樹脂 ・使用量 ○○～○○g/m (別添-○○参照)

2)副構成材料

(寸法単位：mm)

項目	仕様
①引き手	<ul style="list-style-type: none"> ・材質 ○○○系樹脂 ・寸法 00～00×00～00 (別添-○○参照)
②トロカバー	<ul style="list-style-type: none"> ・材質 ○○○鋼板 ・規格 JIS G 0000 ・厚さ 00～00 (別添-○○参照)
③アンカー	<ul style="list-style-type: none"> ・材質 ○○○鋼板 ・規格 JIS G 0000 ・厚さ 00～00 (別添-○○参照)
④セッティングブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・材質 ○○○板 ・寸法 00×00×00 ・密度 00_{±00} ・間隔 00～00 (別添-○○参照)
⑤ガラス押え	<ul style="list-style-type: none"> ・材質 ○○系樹脂 ・使用量 000g/m以下 (別添-○○参照)
⑥バックアップ材	<ul style="list-style-type: none"> ・材料 ○○○ ・厚さ 00 ・質量 000g/m³以上 (別添-○○参照)
⑦仕上げ塗料	<ul style="list-style-type: none"> ・材質 (1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1)○○系樹脂 (2)○○系樹脂 (3)○○○系樹脂 ・塗布量 000g/m²以下(有機質量 000g/m²)以下
⑧留付け材	(8)-1 枠材留付け用 ぐき <ul style="list-style-type: none"> ・材質 ○○ ・寸法 φ○○以上×L○○以上 ・間隔 ○○以下 (別添-○○参照) (8)-2 押縁留付け用 ぐき <ul style="list-style-type: none"> ・材質 ○○ ・寸法 φ○○以上×L○○以上 ・間隔 ○○以下 (別添-○○参照) (8)-3 ○○○留付け用 ぐき <ul style="list-style-type: none"> ・材質 ○○ ・寸法 φ○○以上×L○○以上 ・間隔 ○○以下 (別添-○○参照)

留付け材は使用箇所ごとに材質、寸法、間隔等を記載してください。

- 仕様の構造が分かるように透視図、断面図、各部材の詳細図等を記載してください。(添付の試験体図面を参考に作成願います。)
- 評価図書で記載されている部材は全て図面上に図示して下さい。
- 項目ごとの「詳細図」も記載して下さい。

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

5. 施工方法等

<施工図>

構造説明図と同じ

<施工手順>

(1) ○○○の取付け

・取付け(方法等)

・留付材(種類や間隔)

・目地

・仕上げ

・施工時注意事項

規格化された施工仕様または特に施工において留意する作業がある場合は記載してください。

(2) □□□の取付け

・取付寸法

・留付材

・目地

・仕上げ

・施工時注意事項

(3) △△△の取付け

・取付寸法

・留付材

・目地

・仕上げ

・施工時注意事項

(4) ×××の取付け

・取付寸法

・留付材

・目地

・仕上げ

・施工時注意事項

性能評価用提出図書（別紙） 作成のお願い

＜耐火構造＞
（防火設備用）

～作成にあたっての注意事項～

- 1) 本書類は、性能評価用提出図書（別添）の試験体の選定理由部分です。
評価作業を効率よく実施するため、性能評価用提出図書（別紙）作成をお願いしています。当法人
打合せ担当者との事前打合せ内容に基づいて記入してください。
- 2) 図書サイズは、特に指定されたもの以外はA 4判としてください。
- 3) 様式指定のあるものは、指定どおりの様式を用いてください。
- 4) 原則として文字は全てワープロ打ち（MS明朝体・サイズは10.0ポイント、数字、単位は半角文字）
とし、図面等は鮮明なものとしてください。（ワープロソフトは原則としてMS-WORDを使用し
てください）
- 5) 大臣認定に係る性能評価は、申請構造の仕様に対する評価であるため、「商品名」は記載しないでく
ださい。

仕様の欄は3章の内容と一致させて下さい。

打合せ担当者との事前打合せ内容に基づいて記入して下さい。

紙)

6. 評価方法

6-1. 試験体の選定

1. 寸法および形状等

(寸法単位：mm)

項目	試験体の構造	仕様	試験体の選定理由
大きさ	窓 W 000 × H 000 開口 w 000 × h 000	窓 W 000~000 × H 000~000 開口 w 000~000 × h 000~000	遮炎性上不利となる最大
枠見付	000	000~000	遮炎性上不利となる最小
			遮炎性上不利となる最小

試験体に選定された構造を記載してください。
 数値は全て確定値(以上、以下、±等の表記は不可)で記載して下さい。
 また、別途作成いただく製作チェックリストはこの欄をそのままコピーして作成願います。

行を揃えて表記してください。

2. 材質と構成

1) 主構成材料

(単位：mm)

項目	試験体の構造	仕様	試験体の選定理由
1) 上枠	・材質 ○○鋼板 ・規格 JIS G 0000 ・厚さ 00	・材質 ○○○鋼板 ・規格 JIS G 0000 ・厚さ 00~00 (別添-○○参照)	・材質、規格 仕様と同じ ・遮炎性上不利となる最小
2) たて枠	・材質 ○○○(NM-0000) ・厚さ 00	・材質 ○○○(NM-0000) ・厚さ 00~00 (別添-○○参照)	・仕様と同じ ・遮炎性上不利となる最小
3) 下枠	・材質 ○○○(平成12年 国土交通省告示第 0000号) ・厚さ 00	・材質 ○○○(平成12年 国土交通省告示第 0000号) ・厚さ 00~00 (別添-○○参照)	・材質 仕様と同じ ・遮炎性上不利となる最小
4) 押縁	・材質 ○○○ ・規格 JAS ・厚さ 00	・材質 ○○○ ・規格 JAS ・厚さ 00~00 (別添-○○参照)	・材質、規格 仕様と同じ ・遮炎性上不利となる最小

(寸法単位：mm)

項目	試験体の構造	仕様	試験体の選定理由
5 ガラス	<p>複層ガラス</p> <ul style="list-style-type: none">・総厚 ○○ <p>(複層ガラスの構成)</p> <p>[1]屋外側ガラス</p> <ul style="list-style-type: none">・ガラス種類 低放射ガラス・種類 フロート板ガラス・規格 JIS R 3202・厚さ ○○・反射膜厚さ ○○～○○nm・反射膜の種類 ○○系 <p>[2]屋内側ガラス</p> <ul style="list-style-type: none">・ガラス種類 網入板ガラス・厚さ ○○・規格 JIS R 3204・種類 <p>型板</p> <ul style="list-style-type: none">・形状 <p>ひし網</p> <ul style="list-style-type: none">・線種 ○○製・線径 ○○・網目間隔 ○×○(呼称) <p>[3]中間層</p> <ul style="list-style-type: none">・種類 <p>空気</p> <ul style="list-style-type: none">・厚さ ○○ <p>[4]スペーサー</p> <ul style="list-style-type: none">・材質 アルミニウム合金(JIS H 4000)・寸法 ○○・高さ ○○ <p>[5]封止材</p> <ul style="list-style-type: none">・材質 <p>ポリサルファイド系樹脂</p> <ul style="list-style-type: none">・使用量 ○○～○○g/m (別添—○○参照)	<p>複層ガラス</p> <ul style="list-style-type: none">・総厚 ○○ <p>(複層ガラスの構成)</p> <p>[1]屋外側ガラス</p> <ul style="list-style-type: none">・ガラス種類 低放射ガラス・種類 フロート板ガラス・規格 JIS R 3202・厚さ ○○・反射膜厚さ ○○～○○nm・反射膜の種類 ○○系 <p>[2]屋内側ガラス</p> <ul style="list-style-type: none">・ガラス種類 網入板ガラス・厚さ 6.8・規格 JIS R 3204・種類 <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)透明(磨き板)</p> <p>(2)型板</p> <ul style="list-style-type: none">・形状 <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)ひし網</p> <p>(2)角網</p> <ul style="list-style-type: none">・線種 ○○製・線径 ○○・網目間隔 ○×○又は○×○(呼称) <p>[3]中間層</p> <ul style="list-style-type: none">・種類 <p>(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)空気</p> <p>(2)アルゴン</p> <p>(3)クリプトン</p> <ul style="list-style-type: none">・厚さ ○○～○○ <p>[4]スペーサー</p> <ul style="list-style-type: none">・材質 アルミニウム合金(JIS H 4000)・寸法 ○○～○○・高さ ○○～○○ <p>[5]封止材</p> <ul style="list-style-type: none">・材質 <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)ポリサルファイド系樹脂</p> <p>(2)シリコン系樹脂</p> <ul style="list-style-type: none">・使用量 ○○～○○g/m (別添—○○参照)	<ul style="list-style-type: none">・仕様と同じ <p>[1]</p> <ul style="list-style-type: none">・ガラス種類、種類、規格、厚さ、反射膜厚さ、反射膜の種類仕様と同じ <p>[2]</p> <ul style="list-style-type: none">・ガラス種類、厚さ、規格仕様と同じ・遮炎性上不利となる(2) <p>等の性能を有する一般的な(1)</p> <ul style="list-style-type: none">・線種、線径仕様と同じ・遮炎性上不利となる最大 <p>[3]</p> <ul style="list-style-type: none">・遮炎性上同等の性能を有するため一般的な(1) <ul style="list-style-type: none">・遮炎性上不利となる最大 <p>[4]</p> <ul style="list-style-type: none">・仕様と同じ・寸法、高さ遮炎性上不利となる最大 <p>[5]</p> <ul style="list-style-type: none">・遮炎性上不利となる(1) <ul style="list-style-type: none">・仕様と同じ

2項目以上同じ選定理由の場合、項目名(線種、線径等)を列記してください。

2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

項目	試験体の構造	仕様	試験体の選定理由
①引き手	<ul style="list-style-type: none"> 材質 ○○○系樹脂 寸法 00×00 	<ul style="list-style-type: none"> 材質 ○○○系樹脂 寸法 00～00×00～00 (別添-○○参照) 	<ul style="list-style-type: none"> 仕様と同じ 遮炎性上不利となる最大
②トロカバ	<ul style="list-style-type: none"> 材質 ○○○鋼板 規格 JIS G 0000 厚さ 00 	<ul style="list-style-type: none"> 材質 ○○○鋼板 規格 JIS G 0000 厚さ 00～00 (別添-○○参照) 	<ul style="list-style-type: none"> 材質、規格 仕様と同じ 遮炎性上不利となる最小
③アンカー	<ul style="list-style-type: none"> 材質 ○○○鋼板 規格 JIS G 0000 厚さ 00 	<ul style="list-style-type: none"> 材質 ○○○鋼板 規格 JIS G 0000 厚さ 00～00 (別添-○○参照) 	<ul style="list-style-type: none"> 材質、規格 仕様と同じ 遮炎性上不利となる最小
④セッティングブロック	<ul style="list-style-type: none"> 材質 ○○○板 寸法 00×00×00 密度 00 間隔 00 	<ul style="list-style-type: none"> 材質 ○○○板 寸法 00×00×00 密度 00±00 間隔 00～00 (別添-○○参照) 	<ul style="list-style-type: none"> 材質、寸法、密度 仕様と同じ 遮炎性上不利となる最大
⑤ガラス押え	<ul style="list-style-type: none"> 材質 ○○系樹脂 使用量 000g/m 	<ul style="list-style-type: none"> 材質 ○○系樹脂 使用量 000g/m以下 (別添-○○参照) 	<ul style="list-style-type: none"> 仕様と同じ 遮炎性上不利となる最大
⑥バックアップ材	<ul style="list-style-type: none"> 材料 ○○○ 厚さ 00 質量 000g/m³ 	<ul style="list-style-type: none"> 材料 ○○○ 厚さ 00 質量 000g/m³以上 (別添-○○参照) 	<ul style="list-style-type: none"> 材質、厚さ 仕様と同じ 遮炎性上不利となる最小
⑦仕上げ塗料	<ul style="list-style-type: none"> 材質 ○○○系樹脂 塗布量 000g/m² (有機質量 000g/m²) 	<ul style="list-style-type: none"> 材質 (1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1)○○系樹脂 (2)○○系樹脂 (3)○○○系樹脂 塗布量 000g/m²以下 (有機質量 000g/m²以下) 	<ul style="list-style-type: none"> 発熱量が大きく、遮炎性上不利となる(1) 遮炎性上不利となる最大
⑧留付け材	<ul style="list-style-type: none"> (8)-1 枠材留付け用 くぎ <ul style="list-style-type: none"> 材質 ○○ 寸法 φ00×L00 間隔 00 (8)-2 押縁留付け用 くぎ <ul style="list-style-type: none"> 材質 ○○ 寸法 φ00×L00 間隔 00 (8)-3○○○留付け用 くぎ <ul style="list-style-type: none"> 材質 ○○ 寸法 φ00×L00 間隔 00 	<ul style="list-style-type: none"> (8)-1 枠材留付け用 くぎ <ul style="list-style-type: none"> 材質 ○○ 寸法 φ00以上×L00以上 間隔 00以下 (別添-○○参照) (8)-2 押縁留付け用 くぎ <ul style="list-style-type: none"> 材質 ○○ 寸法 φ00以上×L00以上 間隔 00以下 (別添-○○参照) (8)-3○○○留付け用 くぎ <ul style="list-style-type: none"> 材質 ○○ 寸法 φ00以上×L00以上 間隔 00以下 (別添-○○参照) 	<ul style="list-style-type: none"> 仕様と同じ 遮炎性上不利となる最小 遮炎性上不利となる最大

6-2. 試験方法

試験は、6-1 に示した試験体について、当法人が制定した「防耐火性能試験・評価業務方法書」
「4.9 遮炎・準遮炎性能試験・評価方法」に基づき遮炎性能試験を実施した。

6-3. 試験の結果

[遮炎性能試験](加熱 20 分)

- (1) 非加熱側へ 10 秒を超えて継続する火炎の噴出がなかった。
- (2) 非加熱面で 10 秒を超えて継続する発炎がなかった。
- (3) 火炎が通る亀裂等の損傷及び隙間を生じなかった。

6-4. 評価の結果

本性能評価の仕様は、方法書に基づき管理値を考慮した上で評価した。

7. 申請者連絡先

会社名 :
所在地 :
電話 :

連絡先を記載して下さい。